

[ 校 報 ]

# 白 壁

[ 学校教育目標 ]

夢に向かって命を輝かせる子の育成

《「夢」つよ子・「和」やさしい子・「命」感じる子》

「赤い屋根と白い壁の学校」(創立71周年)

令和6年(2024年)12月23日(月)発行 [ No.10 ]

長浜市立長浜北小学校 TEL 62-1375 FAX 63-9926



## 冬休みへエール！ ～がんばりを振り返り、次へつなげよう～

師走の候 保護者・地域の皆様におかれましては、平素より本校教育の推進と充実のためにご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。2学期も本日、無事に終業式を迎えることができました。これもひとえに皆様方のおかげと重ねてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2学期は、4か月 73 回の登校でした。本校では、子どもたち一人ひとりが成長し、様々な場面で力を発揮してくれました。運動会では、仲間と協力しながら、楽しさや感動を分かち合い、学校全体が一つになった瞬間でした。また、マラソン大会では、最後まであきらめずに走り抜いた姿が、子どもたちの成長を感じさせてくれました。学習面では、子どもたちが自主的に取り組み、目標に向かって着実に努力する姿が多く見られました。今年、「主体的な学び」を目指して、自分から意欲的に学びを進めることができるような場を大切にしました。自分で課題を見つけ、解決策を考える力を養うことが、これからの社会で求められる力であると考えています。また、ICT を活用した授業では、タブレットを使って調べ学習やプレゼンテーションに組み込み、自分の考えを表現することにも挑戦できました。

ご家庭でも2学期の子どもたちの頑張りを振り返っていただき、“最後までよく我慢して、粘り強く、諦めずに頑張ったね。”などと、しっかりと褒めてあげていただきたいと思います。明日からは冬休みとなります。子どもたちには、安全で健康的な生活を送ってほしいと願っております。各学年から出しておりますお知らせや課題に基づいて、規則正しい生活を送り、充実した時間を過ごしてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者・地域の皆様には今年も大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

来る 2025 年(令和7年)が皆様にとりまして、すばらしい一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。どうぞ、良いお年をお迎えください。

### 子どもたちのがんばり 12月 長浜北小ホームページでも紹介しております



6年生租税教室  
税について学習しました。



県下一斉清掃運動 全校で学校の落ち葉を集めました。



3年生浅井歴史博物館  
昔の暮らしを体験しました。



SNS 教室 県警、長浜警察の方のネットトラブルについて話していただきました。(3年生以上)



卓球台贈呈式 日本ペイント株式会社様より卓球台をいただきました。Tリーグ参戦の卓球選手と交流しました。



1年生プログラミング学習  
toio カードとキューブを使って、興味をもって取り組みました。

## 人権集会 ～思いやりを考えよう



12月3日(火)人権集会を行いました。今年は、ゲストとして歌手の藤田恵美さんをお迎えし、「思いやり」をテーマに、全校で心温まるひとときを過ごしました。本校では、6年生が毎年人権集会にむけて「OMOIYARIのうた」を歌っています。その取組が今年で13年目を迎え、「OMOIYARIのうた」を作詞作曲されたご本人をお迎え



することができました。藤田恵美さんのミニコンサートが行われ、美しい歌声とともに「思いやり」や「優しさ」の大切さが心に響きました。最後に全校児童で「OMOIYARIのうた」を合唱し、会場全体が一つになりました。ステージ上では、6年生が手話をつけて、やさしい歌声を響かせてくれていました。その後、6年生が藤田恵美さんと直接「OMOIYARI」について語る会を行い、藤田さんのお話を聞く時間をもちました。1～5年生は教室に戻り、集会の内容を振り返り、学年ごとに自分たちができる「思いやり」の実践について



考えました。子どもたちからは「藤田さんの歌を聴いて、自分も優しい気持ちになれた」「友だちや家族にもっと思いやりをもって接したいと思った」などの感想が多く寄せられました。この集会を通じて、全校児童が「思いやり」の心を改めて意識し、日々の生活に活かしてくれることを願っています。



## 「自己肯定感と自尊感情」について考えてみましょう

近年、この2つの言葉をよく耳にします。これらがしっかり備わっていて、そこで初めて自分だけでなく相手のことも大切にできるとも言われています。辞書を引いてみると以下のように説明されていました。自己肯定感とは、「ありのままの自分を肯定できる感覚のこと」 自尊感情は、書いて字の如く「自分を尊い存在だと思える」ということになります。しかし残念なことに、若者らを対象としたアンケート調査によれば、日本人は他国に比べて自尊感情が欠如しているだけでなく、自己肯定感も異常な低さであることが明らかになっています。この現状の背景に、いったい何が潜んでいるのでしょうか。自尊感情も自己肯定感も言わばビルを建てるようなものであり、土台がしっかりしていなければ建てられないのです。この土台とは、他でもない「僕は(私は)親から望まれてこの世に生まれてきた!」という実感であり、自分という存在が十分に承認されていることです。

ただ、それが「無条件の承認」ではなく、親の期待に応えられたときだけ認めてもらえる「条件付きの承認」であったなら親の顔色ばかり窺うような子どもになってしまいますし、家庭内と同様に集団に在っても自分は此処に居てもいいのだろうか・・・と常に不安感が付きまとうようになってしまうでしょう。ただ、たとえ親から承認を得ることができなくとも、クラスの仲間から「きみが居てくれてよかった」、「居てくれたら嬉しい。楽しい。」と言われ、自分が皆の役に立っているという実感「自己有用感」を感じられれば、存在承認を得ることができそうです。しかし、やはり、自分の親から得られるに越したことはありません。親は、自分自身が育てられたようにしか子どもを育てることができないと言われますが、それはあくまで無自覚な場合であり、自分にも存在承認が欠けていることを理解することさえできれば、自分が辿ってきた過酷な道のりを我が子に歩かせずに済むのです。

すずきしゅういち(\*^-へ\*)

★PTAの教育講演会でお話をいただきました本校のSSW(滋賀県スクール・ソーシャルワーカー)である鈴木先生のブログ【しゅうべえのちょっと哲学】から、子育ての悩み事に関わる記事を時折掲載させていただきます。子育てに関する悩みや困りごとの相談をご希望される方は、ご遠慮なく学校の方までご連絡ください。